

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地		
所在地	（〒213-0032） 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年9月21日	評価結果 市町村受理日	令和7年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・地域交流、近隣施設との交流に力を入れている。
「共に笑顔ですごす」事を大切にしている。地域の方をお招きしたイベント開催や隣接したグループホームとの合同イベントも開催している。
今後も地域交流を活発に行っていく。

・情報発信に力を入れている。
利用者様の笑顔や日々の様子や出来事、職員の思い等々を写真を交えて出来る限り分かりやすく、スタッフブログにて積極的に更新をしている。
各所に好評で感謝の言葉をくださるご家族様もいらっしゃる。
引き続き情報発信に力をいれていく。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年10月29日	評価機関 評価決定日	令和6年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR南武線「武蔵溝ノ口」駅、または東急田園都市線「溝の口」駅より市バスで約10分、バス停「梅林」で下車し、徒歩7分程の所にあります。近くの多摩川沿いに「かすみ堤」があり、静かな住宅地の一角に位置する2階建て2ユニットのグループホームです。

<優れている点>
「単に挨拶だけでなく、交流連携を促進する活動」を進め、コロナ禍で疎遠になった近隣地域との交流を積極的に復活させています。地域の「かすみ堤」の清掃に加わり、「久地桜祭り」や「秋祭り」など地域や事業所のイベントで相互交流を行い、自治会や老人クラブの役員が事業所の「運営推進会議」に出席しています。家族との情報交流にブログを取り入れています。ブログにより家族とは手紙など文書での連絡に留まらず、利用者や事業所内の様子をビジュアルで即時性のある情報提供もできています。介護支援の姿勢として、事業所のスケジュールから少し外れても「利用者の希望に、できる限り寄り添う」支援に取り組んでいます。入浴の曜日、回数、順番、また食事も個人の希望に応じた出前ランチなど、利用者の希望に応じた支援を行っています。

<工夫点>
食事を楽しくする工夫をしています。利用者の状況に合わせたミキサー食や刻み食などの食事形態、希望する外食を楽しむ出前ランチ、天気の良い日に敷地内での青空ランチなどを行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示している。 日々の申し送り時に唱和する事により、常に意識付け、実践へ繋げている。	理念を唱和し、「笑顔で、楽しく」過ごせる日々の実現に取り組んでいます。職員の理念を実践する意識も浸透し、利用者それぞれの個性に寄り添っています。例えば、皆で制作する大きなちぎり絵の、千切ったり、貼ったりする作業を嫌がる利用者にも粘り強く寄り添い、他の利用者と一緒にぬり絵を楽しむようになるなど、一人ひとりを支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの位置づけが5類に代わり、地域交流も少しずつ再開している。 9月20日には「久地リンピック」を開催し、地域の方にも参加していただいた。	コロナ禍が明け、以前の活動再開へと取り組んでいます。地域の人と触れ合う機会も多くなり、地域の「久地さくら祭り」や事業所の「秋祭り」などの交流の場を持っています。「秋祭り」に参加した地域の人から「困った時は声をかけて」との支援の声があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣散歩時の「挨拶」は必ず実践。そこから話を広げる努力をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、地域の皆様（町内会長、老人会会長、婦人部、地域包括職員等）をお呼びして近況報告、情報交換をし、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催しています。事業所から参加者へ活動内容や予定などを報告し、その後意見交換や情報交換の場として有効な機会となっています。家族の参加を促すため、開催日を決めるに当たっては家族の集う交流行事と合わせた日程を設定するなど工夫しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所職員や地域包括職員とは、介護保険や生活保護、空室案内等に関する事で連絡を取り合い、協力関係が築けるように取り組んでいる。また、年2回開催されている地域の見守り活動連絡会にも出来る限り参加させていただき活動をしている。	地域の行政機関の担当部署と密に連携を取っています。地域包括支援センターから、入居者紹介などもあります。オレンジサポーターの養成にも参加しています。「地域の見守り活動連絡会」に加わり、地域の福祉関係者12名と共に独居者や高齢者家族の見守り支援活動を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討を行う事で理解を深めている。	年6回、管理者及び職員がメンバーとなり身体拘束適正化委員会を開催し、スピーチロックやその他発生した事例を基に「身体拘束を起こさない」対応を検討しています。併せて、DVDや管理者が講師となつての研修も実施しています。転倒防止の対応が必要になった際には家族に状況を伝え、家族と相談しながら改善策を決めるようにしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、話し合い等を行う他、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和して意識付けを行っている。	日々の申し送りの時に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和し、虐待防止意識の浸透に取り組んでいます。虐待防止委員会は年5回開催し、虐待に関する発生事例や防止策などの意見交換と検討を行っています。虐待防止の社内研修を年5回行い学びとしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場や参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	あらかじめ十分な説明を行い、ご理解、納得していただいた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受付、安心してご理解いただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議では積極的に意見や要望を仰っていただけるように対応をしている。又、その他日常での電話連絡時に意見やご希望があれば随時お伺いし、反映させ続けている。	利用者の食事やレクリエーションなど日常生活に関する声にはその都度対応しています。家族とは電話や面会などの際に随時話を聞いています。また、定期的に運営推進会議があり、その席で意見や要望を聞き、対応を含めた意見交換を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や個別に面談をする機会を設けている。その他にも連絡帳を用いて意見ができる環境をつくり、反映をさせている。	職員意見で日常的なものは直接または連絡帳などで随時意見交換を行っています。毎月定期的にフロア会議があり、法人からの通達や業務上の報告及び職場の諸改善などについて意見交換を行い、業務に反映させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事で、それぞれがやる気や向上心を持って働くことが出来る環境整備に努めている。	「働きやすく、やる気の出る」就業環境を整えるため、職員の成長や日々の仕事にやりがいを持てるよう、キャリア形成や長所を引き出すことに取り組んでいます。外出や入浴の支援などで急な対応が必要になった場合はパートや夜勤明け職員に臨時応援を依頼し、担当職員の勤務負荷軽減を図っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のフォローアップ研修等各自に合わせた研修会を有している。働きながらトレーニング、スキルアップ出来る環境がある。	研修予定に基づき毎月社内で研修を行っています。中途入社や新卒者に対しては、フォローアップ研修を実施しています。職員のキャリア形成は、人事考課などから各人の希望も交えて行い、介護職資格取得も推奨、支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内同業隣接事業者と交流する機会があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に十分な時間を設け、ご本人の話聞いている。その他積極的にコミュニケーションをとる中で、相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に十分な時間を設け、ご家族の話を傾聴している。その他訪問時や電話連絡時、積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有、「その時」必要としている支援へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていたき、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月発送している一言通信、その他訪問時や電話連絡があった時に報告・連絡・相談を行い、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	過去の生活歴やご本人様との会話の中ででたワードをもとに、話題提供、支援を行っている。	家族に「一言通信」を発行し、定期的に状況を知らせています。在宅時の近所の人や友人の来訪もあり、その際は利用者の居室に通し、湯茶出しなどの支援を行っています。電話の取り次ぎや手紙投函のサポートも行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様が一体感を持てるようなレクリエーションを実施している。支えあいの関係を築けるよう、職員が都度に橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや会話、コミュニケーションから希望や意向を汲み取り都度カンファレンスを実施。またご家族様の思いも聞き取りを行っている。思いに添えるようなケアの実現を目指している。	利用者の声に耳を傾けることにより、穏やかなコミュニケーションが築けています。特に、入浴介助や夜勤帯の静かな時間は、思いや要望などを聞く良い機会として話しかけるようにしています。把握した話や情報を申し送り時や打ち合わせ時に他の職員と共有し、実現に向けての支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談時にご本人の出身地等、過去の生活歴を把握している。又、日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日2回のバイタル測定。食事量、水分量、排泄の状況を表にまとめ、健康状態を把握している。又利用者様個々の生活状況や言動、行動等を日々生活記録に記載し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成においては、ご本人、ご家族のご意向を反映させた上で、必要に応じて関係者（医師等）の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は短期を6ヶ月、長期を1年とし、アセスメント、モニタリングを行い作成しています。ケアマネジャーが中心となり、利用者の精神面などの様子を確認し、介護計画に活かしています。医師から小康状態を得た看取り利用者の介護計画の更新に関しアドバイスを得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有のため、申し送りファイルや連絡帳を活用している。ケアがうまくいった時の方法やケアに関する情報は、申し送りやフロア会議等で共有し、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度、個々が必要としているサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	少しずつ近隣の豊かな地域資源への訪問など、活動をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期訪問診療において、主治医（かかりつけ医）とは顔なじみの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変対応ができる支援体制である。外部通院をされる方は主治医からの情報提供がある。	入所時に家族の了解を得て、かかりつけ医への変更を行なっています。かかりつけ医は24時間対応となっています。精神科、皮膚科、眼科などは外部通院で家族対応です。通院時には、通院報告書を作成し、かかりつけ医に渡して情報共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	「医療連携看護師連絡記録」が介護職、看護職が相互に相談しあうツールとなっている。又、看護師訪問時は口頭でも詳細を伝え、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と連絡を取り合い関係作りに努めている。又、退院前には出来る限りご家族・主治医・施設関係者でムンテラの場を設けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化や終末期においての対応の説明を行っている。又、必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。	終末期は管理者から家族へ連絡し、看取りに関するあり方を相談しています。職員には今後のケアの方針、方法をミーティングや連絡帳でこまめに伝え、職員全体で同じ介護ができるようにしています。職員からは質問が増え、それぞれが利用者を大切にしようとする意識の高まりに繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生、緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練、水防訓練を定期的に行っている。	様々な状況を想定した訓練を行なっています。火事、地震を想定した駐車場への避難、浸水を想定した垂直避難などを実施し、利用者も参加しています。地元の人も訓練に参加し、避難後の見守りに従事しています。備蓄は分散して保管しています。	災害対策のみならず、事業継続計画の職員への周知、備蓄品リスト、災害時の利用者リストを作成し、分かりやすい場所に保管することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりに合わせたお声かけを行っている。不定期にフロア会議内等で言葉かけ、接遇に対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にした対応をしている。	利用者一人ひとりの尊厳を保つことができるよう配慮しています。利用者同士のけんかの際には早めに仲介に入り、両者を離し、それぞれの話を聞くようにしています。フロア会議、連絡帳などで職員の語気の強さについて話し合いを持ち、適切な語気、話しかけができるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話やコミュニケーションの中からご本人の思いや希望などを汲み取り自己決定がされるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪やヘアカラー、セラピー等その人らしいおしゃれができるように支援している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをしていただいている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。	月1回出前昼食を設けています。近隣店舗からラーメン、ハンバーグ、オムライスなど利用者の好きなもの、食べたい物の出前を取り、利用者に楽しんでもらっています。おやつ作りでは利用者一人ひとりにできる事を手伝ってもらい、カボチャプリン、ケーキを作っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ミキサー）にして対応をしている。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェック表を使用し、利用者様それぞれに合わせた自尊心を傷つけないお声かけ、トイレ誘導等の排泄支援を行っている。	職員は、排泄チェック表や利用者の動作等で、排泄への声かけを行っています。失敗した際には、床を拭いたり、トイレで利用者の着替えをするなどで利用者の自尊心を傷つけないよう、職員間で連携を取っています。布パンツ使用の継続に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	こまめな水分摂取の促し、水分量の確保、毎日の体操（運動）への参加、その他必要に応じて乳酸菌飲料での排便促進や内服薬（下剤）使用等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の希望や意向をお伺いし、それを配慮した上で入浴支援を行っている。入浴日の固定、時間の固定、無理強いはない。	入浴の基本は週2回となっていますが、利用者の希望を聞き、時間をずらしたり、翌日入浴することもあります。気持ちよく入れるよう利用者ごとに湯を替えています。入浴中は話を聞いたり、歌を歌ったり利用者が心地よく過ごせるように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	皆様のその時の状況を把握した上で、個々にあった休息をとっていただいている。自室でくつろいでいただく時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し、除圧する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬処方時に薬剤師より説明を受け、薬への理解を深めている。又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好みや性格、得意な事にあわせて役割や楽しみを支援している。（歌、散歩、作品作り、読書等）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナが5類となり、少しずつ外に出かけられるような支援に努めている。	コロナ以前の状態に戻すよう努めています。パート職員の出勤や夜勤明けの職員に業務を依頼して人員確保し、週1回は利用者が外に出られるようにしています。駐車場で秋祭りを行ったり、おやつを外で食べるなど少しでも外に出られるような機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。又、手紙のポスト投函支援も行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内に行事時等に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り替えられるようにしている。その他、季節に合わせた装飾をし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア壁面にはクリスマスや秋祭り、久地リンピックなどの写真を貼り、利用者が「楽しかったねえ」など思い出せるようにしています。また、利用者が千切ったり、貼ったりして制作した季節のちぎり絵の大作を飾り、一人ひとりの励みになるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間（各階フロア）にはソファや大型テレビ、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたり皆様おのおのの時間を楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みのある家具や仏具等、思い出のある品をご家族様と相談しながらお持ちいただいている。その他ご家族様とのお写真やぬいぐるみ等を置いている方もいる。ご本人がいごちの良い空間となるように工夫をしている。	居室には整理ダンス、洗面所、カーテン、ベッドなどが備品としてあります。利用者の状態によって、クッションシートやセンサーマットを敷き、安全に配慮しています。私物の持ち込みは自由で、利用者が動きやすい動線が確保できるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室を皆様がしっかりと把握できるよう入口にわかりやすく掲示をしている。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境に努めている。		

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示している。 日々の申し送り時に唱和する事により、常に意識付け、実践へ繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの位置づけが5類に代わり、地域交流も少しずつ再開している。 9月20日には「久地リンピック」を開催し、地域の方にも参加していただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣散歩時の「挨拶」は必ず実践。そこから話を広げる努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、地域の皆様（町内会長、老人会会長、婦人部、地域包括職員等）をお呼びして近況報告、情報交換をし、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所職員や地域包括職員とは、介護保険や生活保護、空室案内等に関する事で連絡を取り合い、協力関係が築けるように取り組んでいる。また、年2回開催されている地域の見守り活動連絡会にも出来る限り参加させていただき活動をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討を行う事で理解を深めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、話し合い等を行う他、勤務に入る前に「虐待ゼロ」への行動指針を唱和して意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場や参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	あらかじめ十分な説明を行い、ご理解、納得していただいた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受付、安心してご理解いただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議では積極的に意見や要望を仰っていただけるように対応をしている。又、その他日常での電話連絡時に意見やご希望があれば随時お伺いし、反映させ続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や個別に面談をする機会を設けている。その他にも連絡帳を用いて意見ができる環境をつくり、反映をさせている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事で、それぞれがやる気や向上心を持って働くことが出来る環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のフォローアップ研修等各自に合わせた研修会を有している。働きながらトレーニング、スキルアップ出来る環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内同業隣接事業者と交流する機会があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に十分な時間を設け、ご本人の話聞いている。その他積極的にコミュニケーションをとる中で、相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に十分な時間を設け、ご家族の話を傾聴している。その他訪問時や電話連絡時、積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有、「その時」必要としている支援へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていたき、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月発送している一言通信、その他訪問時や電話連絡があった時に報告・連絡・相談を行い、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	過去の生活歴やご本人様との会話の中ででたワードをもとに、話題提供、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様が一体感を持てるようなレクリエーションを実施している。支えあいの関係を築けるよう、職員が都度に橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや会話、コミュニケーションから希望や意向を汲み取り都度にカンファレンスを実施。またご家族様の思いも聞き取りを行っている。思いに添えるようなケアの実現を目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談時にご本人の出身地等、過去の生活歴を把握している。又、日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日2回のバイタル測定。食事量、水分量、排泄の状況を表にまとめ、健康状態を把握している。又利用者様個々の生活状況や言動、行動等を日々生活記録に記載し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成においては、ご本人、ご家族のご意向を反映させた上で、必要に応じて関係者（医師等）の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有のため、申し送りファイルや連絡帳を活用している。ケアがうまくいった時の方法やケアに関する情報は、申し送りやフロア会議等で共有し、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度、個々が必要としているサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	少しずつ近隣の豊かな地域資源への訪問など、活動をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期訪問診療において、主治医（かかりつけ医）とは顔なじみの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変対応ができる支援体制である。外部通院をされる方は主治医からの情報提供がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	「医療連携看護師連絡記録」が介護職、看護職が相互に相談しあうツールとなっている。又、看護師訪問時は口頭でも詳細を伝え、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と連絡を取り合い関係作りに努めている。又、退院前には出来る限りご家族・主治医・施設関係者でムンテラの場を設けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化や終末期においての対応の説明を行っている。又、必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生、緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練、水防訓練を定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりに合わせたお声かけを行っている。不定期にフロア会議内等で言葉かけ、接遇に対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にしたい対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話やコミュニケーションの中からご本人の思いや希望などを汲み取り自己決定がされるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪やヘアカラー、セラピー等その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをさせていただいている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ミキサー）にして対応をしている。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェック表を使用し、利用者様それぞれに合わせた自尊心を傷つけないお声かけ、トイレ誘導等の排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	こまめな水分摂取の促し、水分量の確保、毎日の体操（運動）への参加、その他必要に応じて乳酸菌飲料での排便促進や内服薬（下剤）使用等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の希望や意向をお伺いし、それを配慮した上で入浴支援を行っている。 入浴日の固定、時間の固定、無理強いはしない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	皆様のその時の状況を把握した上で、個々にあった休息をとっていただいている。自室でくつろいでいただく時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し、除圧する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬処方時に薬剤師より説明を受け、薬への理解を深めている。又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好みや性格、得意な事にあわせて役割や楽しみを支援している。（歌、散歩、作品作り、読書等）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナが5類となり、少しずつ外に出かけられるような支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。又、手紙のポスト投函支援も行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内に行事時等に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り替えられるようにしている。その他、季節に合わせた装飾をし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間（各階フロア）にはソファや大型テレビ、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたり皆様おのこの時間を楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みのある家具や仏具等、思い出のある品をご家族様と相談しながらお持ちいただいている。その他ご家族様とのお写真やぬいぐるみ等を置いている方もいる。ご本人がいこちの良い空間となるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室を皆様がしっかりと把握できるよう入口にわかりやすく掲示をしている。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境に努めている。		

2024年度

事業所名 グループホームみんなの家・川崎久地
作成日： 2025 年 1 月 10 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	備蓄品リスト、災害時の利用者様リスト部分において、しっかりとまとめられていない	災害時備蓄品リスト、利用者様リスト（誰がみてもわかりやすく、更新しやすい）の作成	職員数名に協力を求め、備蓄品リスト、利用者様リストの作成を進める。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					